

カメラとマイクの妙

今はもう閉校になってしまった学校に勤務していたとき、「食材レポート中に田舎の校舎から聞こえてくる生徒の歌声にさそわれて、ふらっと立ち寄った」という設定でテレビ局のインタビューを受けたことがあります。…何も私が単独で取材を受けたのではなく、田舎の小さな中学校の教育活動を取材にきたついでに校長にも少しものをたずねただけ…ということはいやほどわかっていたつもりです。ですが、後で映像を見てみると自分を中心にして応えている我が情けなくなり、もう二度とテレビの取材など受けないと宣言したことがあります。

テレビ番組に、日本の田舎を訪ねるものがあります。

たまたま見かけた村の人にカメラとマイクを向ける。その時、中年から老年にかけての女性、つまりおばさんやおばあさんの反応がどこへ行ってもほとんど同じなのです。おばさんたちは、相手が東京からきたテレビ番組のスタッフで、今自分を撮っているのだと知ると一様に笑いだすのです。

「やあわいね、あっはははは。あらはずかしい、うおっほほほ」

そして私を撮ったってしょうがないのだ、ということ在地元の言葉で言います。

「こんなしわくちやなばあさん撮ってもしょうがねえがいね」「わっははははは」

実にもって不思議な現象です。笑っているところを見ると、決して怒っているわけではないらしいのです。それどころか、妙にはしゃいだ感じすらあります。カメラを向けるスタッフは別に、「あなたが村一番の美女と聞いてきました。」と言っているわけではないのです。村に入って最初に見つけたおばさんに「ここはどんな村ですか。」と聞いているだけなのです。でもおばさんは、やめてよ私はそれほどの者じゃない、それにちゃんとお化粧もしていないし、という反応を見せるのです。そう言って撮影をこぼみながら、なんとなく楽しくて、わっはっはと笑ってしまうのです。そこが、おばさんのパワーなのです。

私には無い。